

# 長野県立歴史館たより

2023年 冬号 vol.117

特集

和田英

「糸づくりに懸けた明治の女性」

朝暮華下

日本橋通二丁目十九番地



## 冬季企画展

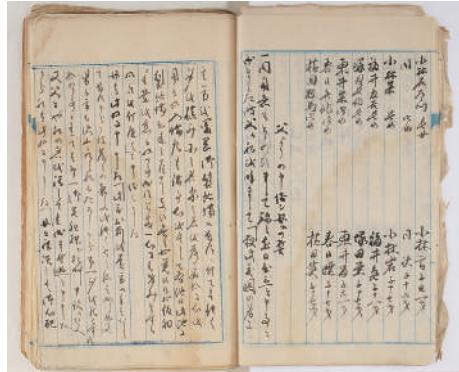
# わだ えい 「和田 英」～糸づくりに懸けた明治の女性～

会期：令和6年1月13日（土）～2月25日（日）

### はじめに

近代日本の主力輸出品であった生糸。明治政府は富岡製糸場の建設を計画し、全国から工女を募集しました。

父の説得に応じ、15歳で富岡製糸場へ入場した和田（旧姓横田）英は、近代製糸技術を



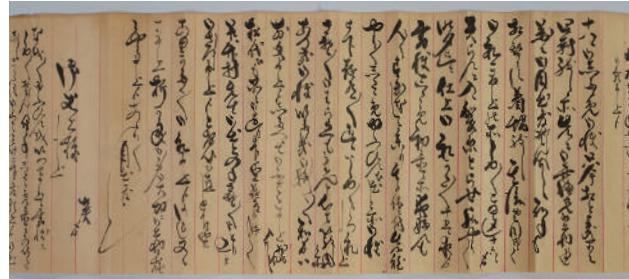
富岡日記（個人蔵・長野市立博物館寄託）

地元松代に建設された六工製糸場や県営長野製糸場などで糸づくりに励んだ女性です。英が後年にまとめた「富岡日記」、「続富岡日記」（個人蔵・長野市立博物館寄託）は、明治初期の工女の生活や思いが記された大変貴重な資料です。

### 1 幕末～明治の松代と横田家

幕末から明治初期の松代は、来航した外国船に対する警備や戊辰戦争の軍役、賄金の流布による経済の混乱などで非常に困窮していました。士族の収入も大きく削られる中で、産業の振興は重要な課題だったのです。

松代藩に仕えていた、英の生家である横田家も、松代の繁栄のために熱心に取り組んでいました。祖父や伯父は、千曲川通船による物流の改善を図り、父の数馬は、藩の財政再建に奔走しました。また、母である亀代は、子どもたちを積極的に遊学させるなど独自の教育方針で英らを育てました。こうした家族の姿は、英にも大きく影響したと考えられます。今回の展示では、初公開となる英と家族の結びつきを示す書状も展示します。



和田英書状（真田宝物館蔵）初公開

### 2 富岡製糸場と工女

渋沢栄一や、初代場長の尾高惇忠、フランス人技師のP・ブリュナラの奔走により、1872（明治5）年、現在世界遺産となっている富岡製糸場が完成、操業を始めました。

工女たちは、生糸の生産に切磋琢磨したことはもちろん、一人の女性として食事や祭を楽しみ、遠く離れた家族を思いながら富岡で懸命に働いていました。今回の展示では、英とともに富岡へ入場した春日蝶の書簡（個人蔵・群馬県立歴史博物館寄託）や工女が使っていた皿や化粧道具（富岡市教育委員会蔵）など、富岡における工女の姿をうかがい知ることができる資料を展示します。工女の生活を想像しながらご覧ください。



びんつけあぶらつぼ 餐付油壺（富岡市教育委員会蔵）

### 3 富岡退場後の和田英と六工製糸場

英は富岡退場後、故郷松代に建設された六工製糸場や県営長野製糸場において後進の指導にあたり、結婚を機に糸づくりから引退しました。

英が指導した六工製糸場は、1875（明治8）年に本格的な操業を開始、1879（明治12）年には国内の品評会である共進会で2等を（「生糸繭共進会一件」当館蔵）、1904（明治37）年にはセントルイス万博において大褒賞を（「セントルイス万国博覧会大褒賞」

長野市立博物館蔵) それぞれ受賞するなど、日本、そして世界に認められる品質の生糸を生産するまでになりました。



セントルイス万国博覧会大褒賞（長野市立博物館蔵）

## おわりに .....

今回の企画では、松代の窮状や母を中心とする横田家の家族が英の生き方に大きな影響を与えたことや、糸づくりだけでなく食事や化粧、休日の楽しみなど、富岡においてそれぞれの工女が一人の女性として生活していた様子、英が指導し、地元の工女のつくった糸が、日本・世界で認められる品質になったこと、などをご紹介したいと考えています。

時代の変革期である明治初期に、困難を乗り越え、国や地域の産業振興に懸けた女性たちの姿に思いをはせてご覧いただければ幸いです。

(内城正登)



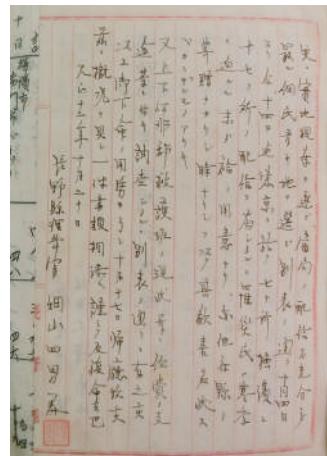
今年は1923(大正12)年の関東大震災発生から100年にあたります。当館蔵の「長野県行政文書」には、関東大震災に関する様々な公文書の綴りが30冊近く含まれており、長野県と震災との関わりを知ることができます。その中でも、県からの援助物資の輸送監督と罹災民救護のため、震災直後の東京に派遣された県官吏たちの活動に関する文書や記録は注目されます。

派遣代表者の畠山四男美は高知県の出身で、のちに福島県や福岡県の知事を務める人物ですが、当時は長野県の理事官の立場にありました。9月4日に信越線で東京に向かった畠山は途中、京浜地方からの避難民が「悲鳴ヲ挙ゲテ汽車ニ満載鈴ナリ」となっていたと記しています。上野駅が焼失していたことから、6日に東京の田端駅に到着した畠山は、ここに県の出張所を開設します。以降、10月17日に帰県するまで、被災地の状況や必要な物資の情報などについて県と連絡を取り合いながら援助物資の輸送や配給作業などに従事しています。一連の記録からは、長野県による援助物資の調達とその送付の経過を克明に知ることができます。

一方、震災後の混乱状況に関する記述も見えます。畠山は田端駅で事務所の設置場所を探した際、「不逞鮮人」(政府に不平を抱く朝鮮人という意味で当時用いられた語)の活動を恐れる市民たちにより、容易に借り受けられなかつたと記しています。別の県官吏も、朝鮮人たちが橋や民家に放火を企てているという情報が流れ、激昂した市民たちが朝鮮人を「容赦ナク滅殺スル勢ヒ」であると9月6日の日誌に記しています。震災発生後、「朝鮮人が暴動を起こして放火した」という根拠のない情報が被災地において飛び交い、恐怖にかられた人々により多数の朝鮮人が殺害されたことが、様々な史料から明らかにされています。混乱の中で誤った情報に惑わされる人々の様子を伝える記述を長野県の公文書にも見ることができます。

災害時の援助はどうあるべきか。誤情報が飛び交った場合にどう行動すべきか。関東大震災の検証を通じて、現在の災害時に生かすべき教訓を見出していくことが求められます。

(花岡康隆)



畠山四男美の復命書(部分)  
〔〔大正12年〕〕京浜震災事務関係書類〕

# INFORMATION

## インフォメーション

■2023(令和5年)12月~ ■2024(令和6年)3月の行事予定

12月

休館日

4・11  
18・25  
28~1/3



### 講座・イベント

#### 県立歴史館講座③

12月9日(土)

「赤い土器のクニ

—邪馬台国時代へのあゆみ—

町田勝則(当館総合情報課)

#### 特設考古学講座③

12月16日(土)

「木製品の保存処理と修理②」

1月

休館日

~3・9  
15・22  
29

### 冬季企画展

#### 和田 英

~糸づくりに懸けた明治の女性~

1月13日(土)~  
2月25日(日)

#### 講演会

1月27日(土)

13:30~15:00

「近代日本の蚕糸技術

—「富岡製糸場と絹産業遺産群」と長野一—

講師 佐藤 有氏

(群馬県立歴史博物館)



#### KOAの日(歴史館無料開放)

1月20日(土)

体験イベント・プラ板マスコット作り



2月

休館日

5・13  
19・26  
27~3/1

#### 体験イベント

2月10日(土)

①11:00~12:00

②13:00~14:00

「まゆクラフトを作つてみよう!」

講師 羽柴小百合 氏

(駒ヶ根シルクミュージアム)

料金:干支の辰、花のブローチ 各500円

ストラップ 300円

定員:各回20名(事前予約制)

※2月27日(火)~3月1日(金)は、  
収蔵庫点検のため休館となります。

表紙写真の説明

ちようこう

朝孝 富岡製糸場工女勉強之図

(群馬県立歴史博物館蔵)

近代製糸業の中核を担った富岡製糸場内部の錦絵です。製糸機械はもちろん、工女たちの服装も詳細に描かれています。写真は大正15年に再版されたものですが、床が絨毯敷きから煉瓦造りに修正されています。

### 行事アルバム

\*\*\*\*\* 夏季企画展 \*\*\*\*\*



夏季企画展関連イベントとして7月22日にワークショップを行いました。県内にある前方後円墳の形をプラ板にトレースし、ストラップを作りました。参加した15名の親子は、「前方後円墳といつても色々な形があるんだね。」と話しながら楽しそうに作成していました。ぜひ古墳の現地にも訪れて、古墳に愛着を持ち続けていただきたいと願っています。

\*\*\*\*\* 歴史館で夏休み \*\*\*\*\*



3月

休館日

1・4  
11・18  
21・25

### 春季企画展

#### 2024年 所蔵品展

#### 「至宝の名品 —学芸員のイチオシ

長野県民がみた  
幕末から現代—

3月23日(土)~  
6月16日(日)

#### 県立歴史館講座④

3月2日(土)

「古代刀剣の保存処理・修復」

白沢勝彦(当館考古資料課)

#### 親子映画会

3月16日(土)・17(日)・  
19日(火)・20日(祝・水)

長野県立歴史館たより 冬号 vol.117

2023(令和5)年12月5日発行

編集・発行 長野県立歴史館

〒387-0007 千曲市大字屋代260-6  
電話 026-274-2000(代) FAX 026-274-3996  
E-mail: rekishikan@pref.nagano.lg.jp  
ホームページ https://www.npmh.net/

印刷 日本ハイコム株式会社